

千葉県保健医療計画（リハビリテーション対策「地域リハビリテーション支援体制整備」）の骨子案

追加・修正のあった箇所・・・下線

1 策定の趣旨

地域リハビリテーション支援体制の整備を通して、障害のある人（子どもを含む）や高齢者を含め地域に暮らすすべての県民が、いつもまでもいきいきとした生活を送ることができる社会を目指す。

（現行計画本文を引用）

2 基本方針

（1）地域リハビリテーション支援体制の整備推進の理念

すべての人々が、本人の「したい生活」を実現できるように、リハビリテーションの視点(※1)から保健・医療・福祉等の関係機関をつなぎ(※2)、適切な支援が切れ目なく(※3)提供されるよう関係機関等の体制の整備を図る。

(※1) リハビリテーションの視点とは・・・その人や地域にとっての選択肢を提供し、自己決定・自己実現をサポートする視点

(※2) 保健・医療・福祉等の関係機関をつなぎの「つなぎ」とは・・・その人や地域を評価し、強みや解決すべき課題を見出し、つなげるべき対象と効果的なつなぎ方を考え、取り組むこと（なお対象は、人や資源、情報、サービス等あらゆるものを指します）

(※3) 適切な支援が切れ目なくとは・・・その人や地域の現状に対する支援だけでなく、連続と続く時間軸を意識した支援

（2）基本目標

ア 「地域リハビリテーションへの理解を広める」

＜方向性＞ 地域リハビリテーションの概念の普及・啓発や広域支援センターの役割を整理し、行政機関、専門職、地域住民の地域リハビリテーションへの理解を深め、広める。

イ 「地域リハビリテーションの活動の基盤をつくる」

＜方向性＞ 持続可能な地域リハビリテーション支援体制の基盤づくりのため、人材の発掘や育成、その安定した活動のための所属機関等への働きかけや予算措置を含めた仕組みづくりを行う。さらに活動のための知識・技術・経験を蓄積し、共有できる仕組みづくりを行う。

ウ 「リハビリテーションの視点で地域を理解する」

＜方向性＞ 地域に根ざした活動を展開するため、リハビリテーションの視点から理解する取り組みを行う。その際、課題だけではなく強みの部分にも目を向け、それらを可視化する取り組みを進める。

エ 「人や組織、情報等を“つなぐ、つなげる、つながる”」

＜方向性＞ 専門職や地域住民同士、施設・機関同士、さらに人と施設・機関そして情報とのつながりづくりを行うことで、課題の解決や各々の人・施設・機関等がより良くなることを支援する。

3 現状・課題

- (1) 県民や関係機関の中では地域リハビリテーションの概念や広域支援センターの役割・取組があまり認知されておらず、普及・啓発を図る手段も十分ではない。
- (2) 人口減少が進む中で、地域リハビリテーションを推進するための持続的な活動を支える基盤が十分ではない。
- (3) 人口、面積、構成市町村数が圏域により様々であるが、地域リハビリテーションに関する地域の実情を捉えることが十分ではない。
- (4) 課題を解決するための多様な分野における関係職種等とのつながりづくりが十分ではない。

4 推進方策

- (1) 基本目標ア を達成するために、
 - ア 地域リハビリテーションの概念や本事業の理念の普及・啓発をする。
 - イ 地域リハビリテーションや本事業の理念の普及・啓発のための方法・ツールを開発する。
 - ウ 広域支援センターの役割を明確化する。
 - エ 相談窓口の機能・役割を整理する。

「あり方検討会」であがっている取組例

- 県・県リハビリテーション支援センター・広域支援センターそれぞれの機能・役割についての合意形成
- 多様な媒体を活用した地域リハビリテーションに係る広報活動
- 地域リハビリテーションの活動に係る相談窓口の情報収集とその窓口を活用した事業展開

(修正前) 地域リハビリテーションの活動に関わる相談窓口の情報収集とその窓口の情報の活用した事業展開

- (2) 基本目標イ を達成するために、
 - ア 地域リハビリテーションに携わる人材の発掘や育成を行う。
 - イ 所属機関等における地域リハビリテーション活動に対する理解を促進する。
 - ウ 地域リハビリテーションの知識・技術・経験を蓄積し、共有する。

「あり方検討会」であがっている取組例

- 関係団体と協働した人材発掘と地域リハビリテーション研修プログラムの開発
- 地域リハビリテーションに携わることにより施設・機関が得られる効果の検証
- 地域リハビリテーションの活動を集約したデータベースの作成及び公開

- (3) 基本目標ウ を達成するために、
- ア 地域の評価方法を確立する。
 - イ 地域を評価する。
 - ウ 地域資源を可視化する。

「あり方検討会」であがっている取組例

- 統計データを用いた定量的評価の実施やリハビリテーションサービスを利用する地域住民のアウトカム指標の検討
- 地域住民や多職種・多機関との対話により地域課題を抽出する方法の開発・実践
- 地域資源の情報を住民や支援者に共有するマップなどのツールや仕組みづくり

- (4) 基本目標エ を達成するために、
- ア 保健・医療・福祉分野に限らず、専門職同士や施設・機関同士のつながりをつくる。
 - イ 地域住民同士のつながりづくりを支援する。
 - ウ 人と適切な情報をつなげる。

「あり方検討会」であがっている取組例

- 「つながり」の現状と課題を整理する。
- 「つなぐ」「つなげる」ためのツールの作成と実践
- つながることの効果の検証

(修正前)

- ウ 人と情報をつなぐ手段や場をつくる。
- エ 人と適切な情報をつなげる。

5 評価指標

指標名	現状	目標（令和11年度）
「地域リハビリテーション研修プログラム」修了者数	— (令和5年度)	700人
「地域リハビリテーション研修プログラム修了者」が在籍する「ちば地域リハ・パートナー」登録機関数	— (令和5年度)	250機関
地域づくり実践している (※)「ちば地域リハ・パートナー」機関数	— (令和5年度)	200機関

(※)「地域づくりを実践している」とは1~3を指す

- 1 市町村が行う介護予防・日常生活支援総合事業、地域ケア会議等へのリハ専門職等の派遣
 - 2 広域支援センターが主催する講演会・研修会等への講師・スタッフの派遣
 - 3 関係機関から広域支援センターへ寄せられたリハビリテーションに関する相談等に対する支援
- 【ちば地域リハ・パートナーの手引き（令和4年3月） 「3パートナーの業務内容より引用」】

6 地域リハビリテーション支援体制の目指す姿

地域リハビリテーション支援体制整備推進事業が目指す姿

